

趣旨説明

東京学芸大学国際教育センター
菅原 雅枝

スクールソーシャルワークの必要性

文部科学省 (2013)

いじめ・不登校などの子どもの問題行動等
近年の子どもを取り巻く環境の変化

家庭の問題⇒虐待、貧困

ネット上のいじめ

今までの生徒指導体制では対応できない事案の増加

⇒スクールソーシャルワーク

「家庭や学校、友人関係、地域社会などの児童生徒が置かれている環境に働きかけて支援を行う」

多文化社会と「ソーシャルワーク」

多文化ソーシャルワーク 石河 (2012)

- ・多様な文化的背景を持つクライアントに対する
- ・クライアントとワーカーが異なる文化に属する援助関係において行われる
- ・クライアントが自分の文化と異なる環境に移住、生活することにより生じる心理的・社会的問題に対するソーシャルワーク

★これまで外国人支援を担ってきたボランティアには対応しきれない深刻なケースの増加

多文化
ソーシャルワーク
の実践分野



スクールソーシャルワーカーの存在が強く求められる

石河 (2012) p.36

スクールソーシャルワークの仕事 (=学校を中心に地域・家庭をつなぐ) は外国人児童生徒支援の中で必要とされてきたこと

= スクールソーシャルワーカーが
学校に配置されることはプラス

⇕

スクールソーシャルワーカーにすべてお任せではない
これまでの支援が不要になるわけではない

⇒ 新たな「専門家」を迎えることで
支援をより手厚いもの、幅広いものにしていくことができる

外国人児童
生徒支援

スクール
ソーシャル
ワーク

・文化背景の違いを意識したスクールソーシャルワーク
・学校・地域が連携した外国人児童生徒支援



本フォーラムで目指すこと

- ① ともに支援に当たる「スクールソーシャルワーカー」について知る
 - ・スクールソーシャルワーカーの仕事とは？
 - ・どんな専門性を持つのか？
 ⇒ 午前の部
- ② 現行の外国人児童生徒支援体制の中でのスクールソーシャルワーカーの役割を考える
 - ・スクールソーシャルワーカーに求めることは？
 ⇒ 午後の部



それによって…

- ・スクールソーシャルワークの専門性を理解して、よりよい関係を築き、子どもたちの支援をより有効なものにする。
- ・外国人児童生徒の支援に携わってきた立場から、多文化化する学校に対応できるスクールソーシャルワーカーの重要性を発信する。



本日の流れ

- ・ 多文化社会におけるスクールソーシャルワーク
東京学芸大学教育学部 馬場幸子
- ・ 福岡市におけるスクールソーシャルワークの取り組み
福岡市スクールソーシャルワーカー 梶谷優子
- ・ パネルトーク：スクールソーシャルワークの役割と期待
 - ① 外国人児童生徒支援の取り組みから
横浜市立飯田北いちよう小学校 田中秀仁
川崎市ふれあい館 原千代子
 - ② パネルディスカッション
- ・ 全体討議



お願い

- ① 記録のため、写真撮影・録音をさせていただきます。ご了承ください。
- ② 事例等で扱われる個人情報へのご配慮をお願いいたします。
- ③ ご質問について
 - ・事実関係や内容確認の質問は、それぞれの講義・報告の後にお願いします。
 - ・質問用紙は昼食休憩時に回収いたします（スクールソーシャルワークに関する質問）。
 - ・パネルトークのご質問は全体討議の中でお願いいたします。



本日1日、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。